

笠間の母なる川、 涸沼川の支流を訪ねてみよう。

笠間市に降った水は、阿武隈山系の山丘陵地からの沢が連なり川となり、涸沼川、巴川となり平坦地を流れます。川は那珂川流域と霞ヶ浦流域に大別されますが、分水嶺は愛宕山東側となっており、涸沼川は那珂川へ、巴川は霞ヶ浦(北浦)へと流れます。涸沼川は、笠間市国見山に源を発し、市内の肥沃な水田地帯を形成しながら茨城町に至り、涸沼に流入します。巴川は、愛宕山山根地区付近を水源として、山根池から泉地区の田圃地帯を流れ、市野谷、福島を経て小美玉市、茨城町、鉾田市を経て北浦に流れ込みます。笠間市唯一の霞ヶ浦流域の河川です。池については湖といわれるのは「笠間湖」のみで、農業用のため池が、375箇所(笠間地区161箇所、友部地区129箇所、岩間地区85箇所)ありますが、市民が憩える水辺は意外と少ない。特に笠間地区は丘陵と耕地の間に小さなため池が点在します。水辺を利用した公園では北山公園(新池、中池、弁天池)があります。南指原地区・駒場地区のほたるの里、北山公園の中にあるゲンジボタルの里、ピオトープ天神の里はいずれも市民が手づくりで整備・管理を行っている場所です。



2 涸沼川 一級河川
涸沼川は、笠間市国見山(392m)に源を発し、城里町(旧七会村)南部を流下し、市町界で洪水時には一部流れを多目的ダムのある飯田川に分水し、笠間市を南北に貫流しながら稲田川などの支流を合わせて、肥沃な水田地帯を形成しながら茨城町に至り、涸沼前川、寛政川を合わせた後、涸沼に流入する。さらに涸沼から再び直轄管理の涸沼川を経て那珂川に合流する。



川池マップ
かわいけまっぷ



7 稲田川 涸沼川支川(一次支流)
国山の北側から流れ出ており、源流は沢集落と寺口集落の二筋あるが、沢集落の方が水量は豊富である。福原駅からは吾国山のハイキングコースとなっている。川は福原、稲田、飯合、来栖を経て、笠間駅前付近(稲荷町)で涸沼川に合流する。



11 隋光寺川 涸沼川支川(二次支流)
宕山西側駒場地区「滝入不動尊」を水源として、大古沢田圃地帯を流れ、国道355号線下郷地区で桜川に合流する。さらに国道355号線バイパスを横断し、土師、押辺を経て湯崎地区で涸沼川に合流する。
※平成18年、隋光寺川日向内集落で全長1mの巨大ウナギが発見された。



13 涸沼前川 涸沼川支川(一次支流)
市原山ノ内地区を水源として、国道50号線下流から河川となる。涸沼川支川では一番長い川で、上市原、中市原、下市原、南友部、小原、鴻巣、五平を経て水戸市五平地区に至る。



1 飯田川 涸沼川支川(一次支流)
見山の東側から流れ出ているが、源流は民有林の雑木林、石寺、笠間湖(飯田ダム)、飯田を経て大淵で涸沼川に合流する。

ここに注目!

注目1 涸沼川と笠間湖は直接接続? 涸沼川導水路



飯田川を堰き止めて造ったダムが飯田ダム(笠間湖)である。涸沼川は飯田川の水量調整により全体の水量を調整している。しかし、涸沼川の洪水時には一部流れを多目的ダムのある飯田ダムに分水して流すのが涸沼川導水路である。
市民のほとんどの人が知らない導水路で涸沼川から分水する場所を羽衣地区で見ることができる。

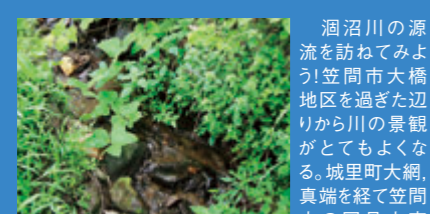
注目2 愛宕山東側に分水嶺



分水嶺とは分水界となっている山脈のことで、笠間市では、愛宕山が分水嶺といえる。笠間市に降り注いだ水のほとんどは涸沼川の流域であるが、岩間地区の泉、市野谷、福島は巴川の流域で霞ヶ浦流域となっている。
たかが流域が違うだけではない。流域の違いで下水道事業や合併浄化槽設置などの国・県の助成が違ってくるのだ。霞ヶ浦を浄化するために、霞ヶ浦流域の方がより厳しい環境基準を設けているので霞ヶ浦流域の方が浄化に関する事業の助成率は高い。
もしかして、市民の生活レベル、意識にも違いがあるかも?

みんなの活用法

その1 涸沼川源流を訪ねてみよう!



涸沼川の源流を訪ねてみよう!笠間市大橋地区を過ぎた辺りから川の景観がとてよくなる。城里町大綱、真端を経て笠間市の国見山東側に水源はある。国見山は国有林で水源かん養保安林の地域になっているが、間伐されたままで、あまり手入れはしていない感じの山となっている。どちらかというと城里町からの農村景観を楽しむことをお勧めしたい。

その2 自然共生型ダムの笠間湖周辺の景観を楽しむ



水鳥と魚の浅瀬、湿生植物園と階段護岸などをきめ細かに整備し、生態系の保全と自然との共生を目指している。オイカワ、モツゴ、コイ、フナ、ゲンゴロウなどかなり多種の淡水魚が生息。野鳥も多く探鳥会の適地。周囲は約4.2kmで、ジョギング、ウォーキングなど楽しむのに最適。春には湖畔にソメイシロ、山側にヤマザクラが咲き、景観を楽しむことができる。

その3 水辺にふれあうピオトープめぐり



北山公園の水辺の湿性生態園では四季折々の生物の間からメダカが顔をのぞかす。手づくりの「ほたるの里」南指原地区、駒場地区、北山公園では6月中旬にゲンジボタルが見られる。ピオトープ天神の里では、そこに住む生物・植物の観察ができる。トウキョウサンショウウオの姿も見られるかも。いずれも市民による手づくりで整備・管理している場所なので、一緒に参加して、汗を流して自然を楽しむのも一つの手段。

笠間の自然
笠間の歴史
文化・芸術・スポーツ
食・グルメ・特産品
かさまの取組み
施設一覧
かさま春秋祭
かさまマニア